

エイズの知識啓発と検査体制の望まれる将来像

全国7自治体における HIV 抗体検査利用者へのアンケート調査

長谷川総一郎* 澤 宏紀* 清水 國樹* 藤岡 正信*
對尾 征彦* 藤平 昇* 石川 直久^{2*} 清水 通彦^{2*}
加藤 恵一^{2*} 傳法 公麿^{3*} 吉川 泉^{4*} 加納 榮三^{5*}
宮本 包厚^{6*} 揚松 龍治^{7*} 砂川 恵徹^{8*} 田島 和雄^{9*}

保健所 HIV 抗体検査（エイズ検査）利用者に対して、全国7自治体（北海道、東京都、愛知県、大阪府、神戸市、佐賀県、沖縄県）の保健所において無記名自記式のアンケート調査を実施した（回答数1,230、有効回答率46.8%）。調査内容は、エイズに関する一般知識、知りたい情報と希望する啓発方法、希望する検査体制等である。男女間、既婚・未婚の間、年代間（40歳未満と40歳以上）でもそれぞれ比較した。調査の結果、以下が明らかになった。

1. 「感染経路」に関する知識では、「母子感染」、「同じ蚊に刺される」、「注射器の回し打ち」の正答率が低く、特に「母子感染」は男性で、「同じ蚊」、「注射器」は40歳以上で低かった。
2. 希望する啓発方法として、「テレビ・ラジオによる広報」、「電話相談による知識の普及」、「エイズ予防週間などのキャンペーンの実施」の順で希望が多かった。
3. 知りたい情報では、「治療方法」、「症状と経過」、「流行状況」の希望が多く、40歳未満でその傾向が強かった。
4. エイズ検査の体制として、検査場所は「保健所」、費用は「無料」、日時は「平日夜間」と「休日」の希望が多かった。
5. 感染の心配がなくても検査を受ける場合として、「結婚前」が全体の約8割を占め、未婚の方が多かった。
6. 検査動機の過半数を「可能性のある行為をして」が占め、男性の方が多かった。
7. 利用者の半数以上が、検査時のプライバシーの保護に関して不安を感じていた。

Key words: エイズ/HIV, アンケート調査, 知識啓発, HIV 抗体検査

I 緒 言

近年わが国では日本人の国内における HIV 感染報告事例の急増が目立ち、新規報告例の感染原因としては「異性間性的接触」がトップになっており¹⁾、エイズは国民1人1人にとって大変身近な問題となりつつある。それにともない、一般住

民に対する効果的なエイズ対策を推進していくことがますます重要になっている。しかし、エイズ対策の大きな柱である保健所における匿名 HIV 抗体検査（以下エイズ検査）の利用件数は、現在全国的に低下傾向をみせており、潜在的感染者の増加と感染の拡大が懸念されている。

今回、知識啓発の効率化と利用しやすいエイズ検査体制の確立を目的として、全国7自治体の保健所においてエイズ検査利用者を対象にアンケート調査を実施した。

II 対象と方法

1. 対象と調査方法

全国7自治体〔北海道（札幌市を含む）、東京都、愛知県（名古屋を除く）、大阪府（大阪市、堺市、東大阪市を除く）、佐賀県、沖縄県、神戸

* 愛知県衛生部

^{2*} 愛知県衛生研究所

^{3*} 北海道保健環境部

^{4*} 東京都衛生局医療福祉部

^{5*} 大阪府環境保健部

^{6*} 神戸市衛生局

^{7*} 佐賀県保健環境部

^{8*} 沖縄県環境保健部

^{9*} 愛知県がんセンター

連絡先：〒460-01 名古屋市中区三の丸3-1-2

愛知県衛生部環境衛生課 長谷川総一郎

市」の保健所で、エイズ検査を目的とした来所者を対象にアンケート調査を実施した。

調査実施期間は平成 5 年 10 月 13 日より同年 11 月 30 日までで、質問票は保健所において対象者に直接手渡した。質問票への記入方法は無記名自記式とし、質問票は郵送または保健所に設置したポストの投函により回収した。

2. 統計解析方法

回収されたデータの入力はいずれも自治体ごとに行い、入力データの集計と解析は愛知県衛生研究所保健情報室および愛知県衛生部環境衛生課で実施した。統計検定は男女間、既婚・未婚の間、年代間で行った。なお、わが国の感染者は 20～30 歳代に集中しているため、年代間の比較は 40 歳未満と 40 歳以上の群間で行った。

また、「知識・情報の程度」の違いによる「希望する知識啓発方法」、「知りたい情報」の違いについても検定した。検定方法は χ^2 検定を用いた。危険率 5 % 未満の場合に統計学的有意差とした。コンピューターは、富士通 SUN4/670、OS は Unix、統計解析プログラムは SAS をそれぞれ使用した。

Ⅲ 研究結果

1. 回答者の属性について（表 1）

アンケート調査票の配布数は 2,631、回収数 1,230、回収率 46.8 % だった。回収率は、大都市圏の自治体で低い傾向があった。男女の割合は、男性 62.4 %、女性 37.6 % だった。年齢階層は、20 歳代 (45.8 %)、30 歳代 (24.1 %)、40 歳代 (15.1 %) の順に多く、20 歳代と 30 歳代の合計で約 7 割を占めていた。未婚者が 61.3 %、子供のいない人が 65.2 % を占めた。40 歳未満の既婚者と未婚者はそれぞれ 235 人と 685 人、40 歳以上の既婚者と未婚者はそれぞれ 237 人と 68 人であった。

2. 集計結果

1) 知識・情報源について

(1) 得ている情報の程度

エイズの知識・情報をどの程度得ているかをたずねたところ、全体の約 8 割（「十分に得ている」 11.9 %、「ある程度は得ている」 67.6 %）がある程度以上得ていると認識しており、19.8 % が「不足している」と感じていた。「その他」、「未記入」

表 1 回答者の属性

区 分	人数	構成比 (%)	北海道	東京都	愛知県	大阪府	佐賀県	沖縄県	神戸市
総数 (調査票回収率: %)	1,230	100	169 (100)	255 (36)	233 (43)	159 (27)	82 (85)	155 (100)	177 (48)
性別									
男性	767	62.4	96	159	169	81	55	94	113
女性	463	34.6	73	96	64	78	27	61	64
不明	0	0							
年代別									
10代	61	5.0	9	12	21	3	5	5	6
20代	563	45.8	83	131	105	71	26	70	7
30代	296	24.1	42	50	57	38	24	42	43
40代	186	15.1	26	37	33	24	11	22	33
50代	87	7.1	4	20	12	17	10	12	12
60歳以上	36	2.9	5	5	5	6	5	4	6
不明	1	0.1	0	0	0	0	1	0	0
結婚									
既婚	472	38.4	55	82	92	79	39	54	71
未婚	754	61.3	114	171	140	80	42	101	106
無回答	4	0.3	0	2	1	0	1	0	0
子供									
いる	421	34.2	53	66	81	65	38	55	63
いない	802	65.2	115	187	152	92	43	99	114
無回答	7	0.6	1	2	0	2	1	1	0

の合計で0.7%を占めた。

(2) 感染経路についての知識 (表 2)

どのような場合に感染すると思うかたずねたところ、「一緒に食事をする」、「性行為をする」などは高い正解率であったが、「出産や授乳の時に赤ちゃんへ (母子感染)」、「麻薬等を同じ注射器で回し射ちする」、「同じ蚊に刺される」で正解率が有意に低かった。「母子感染」は女性の正解率が男性より有意に高かった。

「母子感染」および「麻薬等を同じ注射器で回し射ちする」は既婚・未婚ともに40歳未満の正解率が有意に高かった。

(3) 希望する啓発方法 (表 3)

エイズに関する知識啓発手段としてどのような方法がよいかをたずねたところ、「テレビ・ラジオによる広報」、「電話相談による知識の普及」、「エイズ予防強化週間などのキャンペーンの実施」が上位を占めた。「パンフレット」、「本・雑誌」が40歳未満の未婚で有意に高かった。「教育ビデオの作成および無料貸出」、「本・雑誌による広報」、「電話相談」は未婚の40歳未満で希望が多く、「テレビ・ラジオ」、「本・雑誌」は未婚の40歳未満で有意に高かった。「講演会・研修会の開催」は既婚の40歳以上で有意に希望者が多かった。

(4) 知りたい情報 (表 4)

エイズについて知りたい情報をたずねたところ、「治療方法」、「症状と経過」、「世界や日本に

表 2 感染経路についての知識 (正答率 %)

感染源・経路/属性	男性	女性	40歳未満		40歳以上	
			既婚	未婚	既婚	未婚
食事*	98.8	99.6	98.3	99.3	99.6	98.5
トイレ*	99.2	99.4	98.7	99.9	97.9	100
プール・風呂*	99.0	99.1	98.3	99.4	98.3	100
握手する*	99.2	99.6	98.7	99.6	99.2	100
咳・くしゃみ*	98.0	98.1	96.6	98.7	97.1	100
蚊に刺される ^ア	89.6	88.3	88.1	89.2	89.5	89.7
性行為*	97.9	98.3	98.7	97.5	98.3	100
母子感染 ^ウ	69.2	81.2 ^α	79.2	80.4	54.0 ^c	60.3 ^c
注射器 ^ア	89.3	94.4	93.2	94.9	81.0 ^c	88.2 ^a

χ^2 検定 α : $p<0.05$ (男性と比較), $\supset$: $p<0.05$; $\supset$: $p<0.01$; $\cup$: $p<0.001$
(* 項目のそれぞれと比較), a : $p<0.05$; b : $p<0.01$; c : $p<0.001$ (同一結婚状況で40歳未満と比較)

表 3 希望する啓発方法 (希望すると回答した者の割合, 複数回答可, %)

啓発方法/属性	男性	女性	40歳未満		40歳以上	
			既婚	未婚	既婚	未婚
パンフレット*	29.6	24.6	23.4	31.0 ^α	24.5	20.6
教育ビデオ*	28.2	36.1	36.2	32.7	22.8 ^b	26.5
テレビ・ラジオ ^ウ	55.5	56.2	54.0	60.2	48.1	44.1 ^b
新聞 ^ア	34.9	31.5	34.9	34.2	31.2	30.9
本・雑誌*	28.0	37.8	28.1	39.4 ^β	18.1 ^b	14.7 ^c
講演会・研修会 ^ア	23.6	28.1	17.9	28.6	25.3 ^a	17.7
電話相談 ^イ	43.8	52.1	48.9	49.9	38.4 ^a	38.2
キャンペーン ^ア	37.0	32.2	39.2	33.6	34.2	41.2
その他 ^ウ	4.2	5.6	4.3	5.6	3.0	4.4

χ^2 検定 α : $p<0.05$; β : $p<0.01$ (同一年齢の既婚と比較), $\supset$: $p<0.05$; $\supset$: $p<0.01$; $\cup$: $p<0.001$
(* 項目のそれぞれと比較), a : $p<0.05$; b : $p<0.01$; c : $p<0.001$ (同一結婚状況で40歳未満と比較)

表 4 知りたい情報（複数回答可，％）

情報/属性	男性	女性	40歳未満		40歳以上	
			既婚	未婚	既婚	未婚
流行状況 ^ウ	39.1	41.9	41.7	42.8	34.2	29.4 ^a
相談・検査機関	23.9	28.5	28.1	26.9	21.5	20.6
感染者の生活 ^ア	27.2	37.6 ^α	35.3	32.9	24.9 ^a	22.1
感染経路 ^イ	31.9	26.1	30.6	30.5	26.6	29.4
予防方法 ^ウ	34.6	37.8	34.5	37.8	32.9	27.9
ウイルス情報 [*]	20.5	19.9	19.6	21.6	16.9	20.6
症状と経過 ^ウ	41.6	49.2	48.1	48.6	32.5 ^c	32.4 ^b
治療方法 ^ウ	45.0	51.2	51.1	51.7	34.2 ^c	38.2 ^a
その他	2.9	2.4	1.7	3.4	1.7	2.9

χ² 検定 α：p<0.05(男性と比較)，ア：p<0.05；イ：p<0.01；ウ：p<0.001
（* 項目と比較），a：p<0.05；b：p<0.01；c：p<0.001（同一結婚状況で40歳未満と比較）

表 5 将来の感染不安（％）

不安の程度/属性	全体	既婚	未婚	40歳未満	40歳以上
大変不安がある	13.7 ^ウ	13.6	13.7	13.8	13.3
ある程度不安がある	52.4 ^ウ	45.8	56.5 ^α	54.1	47.3 ^α
あまりない	19.6 ^イ	22.0	18.2	19.9	18.8
まったくない	4.4 [*]	5.5	3.7	3.7	6.5
わからない	5.0 [*]	6.1	4.2	5.2	4.2
未記入	5.0	7.0	3.7	3.3	10.0 ^α

χ² 検定 α：p<0.05（既婚あるいは40歳未満と比較）
イ：p<0.01；ウ：p<0.001（* 項目のそれぞれと比較）

おける流行の状況」などが上位を占め、「ウイルス情報」は低かった。「感染者の生活」は女性に有意に多かった。「症状と経過」，「治療方法」は既婚・未婚ともに40歳未満が有意に高かった。また，「感染者の生活」は既婚の40歳未満で有意に高く，「流行状況」は未婚の40歳未満で有意に高かった。

2) 将来 HIV に感染する不安（表 5）

将来 HIV に感染する不安の程度をたずねたところ，「大変不安である」と「ある程度不安がある」を合わせた「不安がある」が約 3 分の 2 を占めた。一方，将来の感染不安が「あまりない」か「まったく無い」との回答が約 2 割にみられた。「ある程度不安」は，未婚と40歳未満に多く，その他は既婚・未婚，年代間で差がみられなかった。

表 6 検査機関についての希望（複数回答可，％）

機関/属性	40歳未満		40歳以上	
	既婚	未婚	既婚	未婚
保健所 ^ウ	79.2	81.0	76.4	75.0
市町村保健センター [*]	22.6	22.0	16.0	14.7
病院・診療所 ^ウ	49.8	46.7	36.7 ^β	33.8 ^α
その他	3.0	5.4	4.2	2.9

χ² 検定 α：p<0.05；β：p<0.01（同一結婚状況の40歳未満と比較）
ウ：p<0.001（* 項目と比較）

3) エイズの検査体制について

(1) 検査機関についての希望（表 6）

検査実施の場所についての希望をたずねたところ，「保健所」が最も多かった。「病院・診療所」は既婚・未婚ともに40歳未満で有意に希望が多かった。

(2) 検査費用についての希望

検査費用についての希望をたずねたところ，「無料」74.4%，「有料」3.0%，「どちらでもよい」16.9%，「未記入」5.7%であった。

(3) 検査日時についての希望（表 7）

検査日時についての希望をたずねたところ，「休日」，「平日夜間」の希望が多かった。「休日」は未婚の40歳未満で，「平日夜間」は既婚・未婚ともに40歳未満で，それぞれ有意に希望が多かった。

表7 検査日時についての希望（複数回答可，％）

日時/属性	40歳未満		40歳以上	
	既婚	未婚	既婚	未婚
平日業務時間内*	17.9	20.9	24.5	20.6
平日夜間 ^ウ	52.8	52.7	37.6 ^γ	39.7 ^α
休日 ^γ	60.0	58.7	51.1	41.2 ^β

χ²検定 α：p<0.05；β：p<0.01；γ：p<0.001（同一結婚状況の40歳未満と比較）
^ウ：p<0.001（*項目と比較）

(4) 検査を受けるにあたって

検査時に「相談にのってほしい」のは46.1%，「どちらでもよい」30.7%，無回答6.2％であるのに対して，17.0％が「いろいろな事を聞かないでほしい」と回答した。

(5) 相談に応じる人の希望（表8）

どんな人に相談したいかをたずねたところ，「医師」，「専門の相談員」が上位を占めた。「同性の人」は女性で有意に多かった。「医師」は既婚の40歳未満で，「保健婦」は既婚の40歳以上でそれぞれ有意に希望が多かった。

4) HIV 感染の心配がなくても検査を受ける場合

(1) 結婚前の検査

結婚前などに相手の感染していないことを知らせるために検査を受けるかどうかたずねたところ，受けるとの回答は全体の77.9％であり，既婚69.9％，未婚82.9％で，未婚の方が有意に多かった（p<0.05）。

(2) 定期健康診断時の検査

定期健康診断の1つとして検査を受けるか否かたずねたところ，受けるとの回答は全体の50.0％であり，既婚55.9％，未婚46.4％で，既婚の方が有意に多かった（p<0.05）。

5) 検査の動機

今回検査を受けた動機についてたずねたところ，「感染する可能性のある行為をして，心配になったから」54.1％，「その他」21.5％，「体に不調があって」14.9％，「検査証明書が必要になったから」7.3％などであった。「可能性のある行為をして」の男女別内訳は男性59.5％，女性44.7％であり，男性が有意に多かった。（p<0.01）。「その他」の具体的内容としては，「結婚のため」，「健康管理のため」が多かった。

6) 検査時のプライバシーの保護に関して（複数回答可）

検査を受ける際に，プライバシーの保護に関して何が気になったかをたずねたところ，「何も気にならなかった」46.0％，「保健所に来た他の人にこの検査を受けることを知られる」30.8％，「受付，相談，採血等で何人かの担当者に知られる」27.3％，などであった。既婚・未婚，年代間の差はみられなかった。

7) 検査の経験について

過去にエイズ検査を受けた経験があるかどうかをたずねたところ，「経験有り」21.4％，「経験無し」78.4％，「未記入」0.2％であった。

8) クロス集計

(1) 知識・情報の程度と希望する啓発方法（表9）

表8 検査に応じる人の希望（複数回答可，％）

検査に応じる人/属性	男性	女性	40歳未満		40歳未満	
			既婚	未婚	既婚	未婚
医師 ^ウ	60.2	50.3	60.0	58.4	50.2 ^a	47.1
保健婦 ^ウ	21.3	26.8	20.9	21.9	30.0 ^a	22.1
事務職員	2.3	0.6	0.9	1.6	3.0	0.0
専門の相談員 ^ウ	52.3	60.5	53.6	58.4	49.8	51.5
同性の人*	7.6	23.8 ^β	14.0	15.9	8.4	7.4
異性の人	2.2	2.4	3.0	2.3	2.1	0.0
誰でも良い*	7.3	4.8	5.1	7.3	5.9	1.5

χ²検定 β：p<0.01（男性と比較），^ウ：p<0.001（*項目のそれぞれと比較）
^a：p<0.05（同一結婚状況の40歳未満と比較）

知識・情報をある程度以上得ていると答えた群と不足と答えた群間の、希望する啓発方法の差について検定した結果、「教育ビデオ」、「テレビ・ラジオ」、「新聞」、「電話相談」、「キャンペーン」はいずれも知識・情報がある程度以上得ていると答えた群が有意に多かった。

(2) 知識・情報の程度と知りたい情報 (表10)

知識・情報がある程度以上得ていると答えた群と不足と答えた群間の、知りたい情報の差について検定した結果、「流行状況」は知識・情報がある程度以上得ていると答えた群が有意に多かった。「感染経路」と「予防方法」はいずれも不足と答えた群が有意に多かった。

Ⅳ 考 察

日本人の患者・感染者報告数が増加の一途をたどっているにもかかわらず、保健所エイズ検査利用件数は全国的に減少しており、エイズに対する社会的関心にも低下傾向がみられるというように、わが国におけるエイズをとりまく状況は新たな局面を迎えており、エイズ対策も流行初期とは異なる対応が求められている。本研究は自治体のエイズ対策の効果評価を行い、あわせて施策への提言を導き出すことを目的として実施された。

感染経路の知識に関する調査結果は、平成 3 年の総理府全国調査 (対象：一般住民)²⁾、森下ら (看護婦)³⁾、小澤ら (高校生)⁴⁾、薩田ら (看護婦、臨床検査技師、事務職員)⁵⁾、大川ら (一般住民)⁶⁾、矢内ら (高校生)⁷⁾ の調査結果と比較する

表 9 知識・情報の程度と希望する啓発方法・知りたい情報

	知識・情報の程度 (回答数/%)		χ^2 検定 危険率
	得ている群	不足して いる群	
希望する啓発方法			
パンフ・ポスター	278/28.5	60/24.6	0.228
教育ビデオ	324/33.2	> 56/23.0	0.002
テレビ・ラジオ	568/58.1	>115/47.1	0.002
新聞	346/35.4	> 66/27.1	0.013
本・雑誌	321/32.9	68/27.9	0.135
講演会・研修会	254/26.0	54/22.1	0.213
電話相談	476/48.7	> 99/40.6	0.023
キャンペーン	358/36.6	> 73/29.9	0.049
その他	49/ 5.0	7/ 2.9	0.152
知りたい情報			
流行状況	413/42.3	> 78/32.0	0.003
相談・検査機関	252/25.8	63/25.8	0.993
感染者の生活	315/32.2	65/26.6	0.091
感染経路	264/27.0	< 98/40.2	0.000
予防方法	321/32.9	<115/47.1	0.000
ウイルスについて	205/21.0	41/16.0	0.145
症状と経過	443/45.3	102/41.8	0.320
治療方法	477/48.8	105/43.0	0.105
その他	22/ 2.3	10/ 4.1	0.106

と全般的に正答率が高かった。一方、保健所エイズ検査の利用者を対象とした杉本ら⁸⁾の報告結果は、今回の結果に近い正答率を示しており、保健所エイズ検査利用者の多くが感染経路を正しく理

表10 アンケート調査の様式

Ⅰ あなた自身についておたずねします。			
問 1	あなたの性別を教えてください。(どちらか 1 つ)		
	1 男	2 女	
問 2	あなたの年齢を教えてください。(どれか 1 つ)		
	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳以上
問 3	あなたは結婚されていますか。(どちらか 1 つ)		
	1 はい	2 いいえ	
問 4	あなたには子供さんがいらっしゃいますか。(どちらか 1 つ)		
	1 いる	2 いない	
問 5	あなたはこの検査を今までに受けられたことがありますか。(どちらか 1 つ)		
	1 ある	2 ない	
問 6	あなたが今回、検査を受けられた動機は何ですか。(どちらか 1 つ)		
	1 体に不調があって心配になったから	2 感染する可能性のある行為をして心配になったから	
	3 検査証明書が必要になったから	4 その他 ()	

II 知識・情報源についておたずねします。

問1 あなたはこの病気の知識・情報をどの程度得ていると思われますか。(どちらか1つ)

- 1 十分に得ている 2 ある程度は得ている 3 情報不足である
4 その他 ()

問2 どのような場合に感染者からエイズウイルスが感染すると思われますか。(複数回答可)

- 1 一緒に食事をする(同じ皿やコップを使う) 2 同じ洋式トイレを使う 3 一緒にプールや風呂に入る
4 体に触れたり握手をする 5 咳やクシャミが飛んでくる 6 同じ蚊に刺される
7 性行為をする 8 出産や授乳の時に母親から赤ちゃんへ 9 麻薬等を同じ注射器で回し射ちする

問3 今後、エイズの知識啓発がより進められるためには、国や自治体にどのような方法を望まれますか。(複数回答可)

- 1 パンフレット・ポスターの配布 2 教育ビデオの作成および無料貸出 3 テレビ・ラジオによる広報
4 新聞による広報 5 本・雑誌による広報 6 講演会・研修会の開催 7 電話相談による知識の普及
8 エイズ予防週間などのキャンペーンの実施 9 その他 ()

問4 あなたがエイズについて最も知りたい情報は次のどれですか。(複数回答可)

- 1 世界や日本における流行の状況(患者・感染者数) 2 相談窓口・検査実施機関の紹介 3 感染者の生活
4 感染経路 5 予防方法 6 ウイルスについて 7 症状と経過 8 治療方法
9 その他 ()

III あなたの率直なお考えをおたずねします。

将来、ご自分がエイズウイルスに感染する不安はありますか。それともありませんか。(どれか1つ)

- 1 大変不安である 2 ある程度の不安はある 3 あまり不安はない
4 まったく不安はない 5 わからない

IV 検査体制について、おたずねします。

問1 この検査を更に受けやすくするためには、検査体制をどのようにしたら良いでしょうか。あなたの率直なご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

(1) 検査機関について

検査はどこで受けられると良いと思われますか。(複数回答可)

- 1 保健所 2 市町村保健センター 3 病院・診療所 4 その他 ()

(2) 検査費用について(どれか1つ)

- 1 無料 2 有料 3 どちらでも良い

(3) 検査日時について(複数回答可)

- 1 平日の業務時間内 2 平日の夜間でも受けられるようにしてほしい
3 休日でも受けられるようにしてほしい

(4) 検査を受けるにあたって(どれか1つ)

- 1 いろいろな事を聞かないでほしい 2 相談にのってほしい 3 どちらでもよい

(5) 相談はどんな人にしてほしいと思われますか。(複数回答可)

- 1 医師 2 保健婦 3 事務職員 4 専門の相談員 5 同性の人 6 異性の人
7 誰でも良い

(6) プライバシーの保護に関してどのようなことが気になりましたか。(複数回答可)

- 1 受付、相談、採決等で何人かの担当者に知られる 2 保健所に来た他の人にこの検査を受けることを知られる
3 相談の内容が細かすぎる 4 何も気にならなかった
5 その他 ()

問2 あなたは次のような理由があった場合にエイズ検査を受けますか。

(1) 結婚前など、相手に感染していないことを知らせるため(どちらか1つ)

- 1 はい 2 いいえ

(2) 定期的に健康診断のひとつとして受ける(どちらか1つ)

- 1 はい 2 いいえ

(実際のアンケート調査用紙では、選択項目が項目毎に改行して記載されているものもあります。)

解した上で検査を受けている可能性が示唆された。40歳未満および女性で「母子感染」に関する回答率が高かったことは、今後「母子感染」による感染者の増加を抑制していく上で、意義があることと思われた。

希望する知識啓発の手段のトップは「テレビ・ラジオ」だったが、エイズの知識の情報源についての過去の報告^{3~5),7~10)}でも「テレビ・ラジオ」はトップを占めていた。「テレビ・ラジオ」を利用した啓発は、コストが高いという難点があるにもかかわらず、平成5年度「世界エイズデー」関連行事は全国50自治体（47都道府県および12指定都市）のうち約半数の29自治体で実施されており¹¹⁾、すでに全国的に普及した啓発方法である。2番目に希望の多い「電話相談」は、HIV感染のリスクが高い若年層の支持が多く、エイズ対策として取り入れることが望ましい。37自治体で実施されている「講演会・研修会」に対する希望は今回の調査結果では多くなかったが、高校生など特定集団に対する啓発方法として優れていることが実証されているため⁴⁾、今後は対象者の選択や啓発内容にさらに検討を加えて実施することが求められている。啓発方法についての希望は、知識を得ている群の方が不足している群より全般的に高率であったことから、知識が増えるに従ってさらに情報を求める傾向があることが示された。

知りたい情報のトップは「治療方法」だったが、小澤ら⁴⁾、薩田ら^{5,9,10)}の調査でも同様の結果であり、エイズ治療について最新の情報を収集し、周知していくことが重要である。「感染者の生活」についての関心は感染者への共感の素地であるとも考えられるが、回答者は全体の約3割にすぎなかった。「流行状況」は知識を得ている群で、「感染経路」と「予防方法」は知識の不足している群でそれぞれ希望が多かったことから、知識啓発の際の話題は対象者の知識水準に応じて行うことも考慮すべきである。

将来の感染不安は、調査対象が検査目的の来所者である今回の調査では、一般住民を対象とした過去の報告²⁾と比較すると極めて高率であった。また、既婚・未婚間の比較では将来の感染不安は未婚群で高く、独身という要因が感染不安を強めているのか、逆に感染不安が結婚を妨げる要因になっているのか、その他いろいろな要因が関与し

ているのかも知れない。一方、年齢層別でみると、「不安」と回答した人は40歳未満で多く、感染者が多発している年齢層であった。

エイズ検査の実施場所に関する希望は「保健所」が約8割を占めて最多だったが、保健所利用者が調査対象者だったため、選択バイアスが存在している可能性は配慮すべきである。しかし、杉本らの報告⁸⁾と同様に、保健所に対する期待の高さが示されていると解釈すれば、今後さらに保健所エイズ検査を推進していくことが必要である。なお、総理府による一般住民に対する調査によると、エイズ感染の不安があったとき検査を希望する場所は、病院がトップであった²⁾。

エイズの検査体制についての設問では、料金無料の希望が多かった。実施日時については「平日業務時間内」と答えた人は少なかった。保健所エイズ検査の件数が減少している現状においては、利用者の希望に即した検査体制の確保が急務であり、検査の無料化と時間外（休日または平日夜間）の対応も取り入れるように努力するべきであろう。

検査時の相談については、希望する人が半数以下であり、特に2割弱の人が「いろいろな事を聞かないでほしい」と考えている現状が示された。しかし、検査結果陽性時に備えて情報を伝える検査前カウンセリングの重要性を考えると検査時相談は必須であるので、必ずしも望まれていないのに相談業務を行わなければならないというジレンマを現場で生ずる恐れがある。一方、検査を受ける際のプライバシーの保護に関しては、検査利用者の半数以上が何らかの問題を感じており、相談を受けたくない原因がこのあたりに存在している可能性がある。プライバシー保護に関する不安を増大される因子として、保健所の秘密保持に対する不信任感、検査体制の不備、エイズに対する社会的な偏見・差別の存在などが考えられるので、不安を解消するためには、エイズ検査の場所や時間に配慮を払うのみではなく、検査時の相談に際してはエイズの一般的な情報を伝達した後に、被検者のニーズに応じて個別のプライバシーに関した相談に移っていくなどの柔軟な対応で臨み、さらに偏見・差別の解消を目指して社会の各層に対して知識普及を推進するという多面的な対策の展開が必要である。

相談に応じる人は「医師」「専門の相談員」および女性利用者の希望者が高い「女性の相談員」の確保も考慮すべきである。

HIV 感染の心配がなくても検査を受ける場合として質問した結果、定期健康診断時と答えた人は約半数あった。しかし、検査利用者の回答であったことからバイアスがかかっている可能性はあるが、感染の心配の程度によっては、気軽に利用できる体制が望まれているともいえる。検査の意義の伝達方法、プライバシーの管理、結果の告知方法などに配慮しながら、今回の調査結果に従って、エイズ検査を住民検診等に取り入れ、本人の意志に基づいて実施することができれば、検査件数が大幅に増加する可能性がある。また、結婚前に検査を受けることについては全体の約8割が肯定的であり、今回検査を受けた動機の約5分の1を占める「その他」の理由の中で、「結婚のため」という回答が最も多く、「結婚」が検査の有力な動機づけになっていることが裏付けられた。

検査の動機としては「感染の可能性のある行為をして心配になったから」が全体の過半数を占め、男性が有意に多かった。これらは、杉本らの報告⁸⁾と同様の結果であった。前述のとおり、調査対象者の多くは感染経路について正しく認識していたことから、保健所エイズ検査の利用者の多くは、感染リスクが高い行為を実際経験したために来所した可能性が高いことが示された。

エイズ検査の経験者の割合は約2割を占めており、これは繰り返し検査を受ける人が5人に1人程度いることを示した。検査を繰り返し受ける理由としては、「感染の危険性のある行為を繰り返しているため」、「過去の検査の結果に対して不信感があるため」、「エイズノイローゼによるもの」などが考えられるが、今後さらに調査する余地がある。

最後に、本研究の回収率は46.8%であり、検査利用者全員の意見を完全に反映したものではない。しかし、限られた予算と時間の中でエイズ対策が最大限の効果を上げていくためには、今回のような調査を継続的に実施してエイズ対策自体の評価を行い、対策策定に役立てることは意義があることと思われる。保健所エイズ検査利用者を対

象として複数の自治体で調査を行った例は、我々の調べ得た範囲では今回が初めてである。

なお、本研究は平成5年度 HIV 疫学研究班厚生科学研究費の援助によるものである。また、本論文の要旨は、平成5年度 HIV 疫学研究班総会（平成6年3月、東京）および第10回国際エイズ会議（1994年、横浜）において発表した。

[研究協力者]

中山征夫 山西英正（北海道）、前田右子 稲垣智一 前田秀雄（東京都）、中森 繁 近藤智治（大阪府）、西谷 寛 橋詰幸一 中瀬克巳（神戸市）、斎藤俊行 東島教明（佐賀県）、安里義男（沖縄県）、新城正紀（琉球大学医学部）

（受付 '95. 4. 7）
（採用 '96. 2. 20）

文 献

- 1) エイズ (AIDS). 厚生統計協会. 厚生指針臨時増刊 国民衛生の動向 1994; 158-160.
- 2) エイズに関する世論調査. 総理府交付室. 1991.
- 3) 森下利子, 他. 三重県の看護者におけるエイズに関する意識調査. 日本公衛誌 1993; 40 (4): 323-329.
- 4) 小澤和郎, 他. 高校生への効果的なエイズ予防教育に関する研究, 平成4年度 HIV の疫学と対策に関する研究班研究報告書 1993; 121-130.
- 5) 薩田清明, 他. エイズに対する意識および知識について 第2報 臨床検査技師, 看護婦, 事務職員の調査から, 日医大誌 1994; 61 (1): 47-53.
- 6) 大川正文, 他. 三重県におけるエイズ意向調査. 三重衛研年報 1990; 36: 73-84.
- 7) 矢内真理子, 他. 東京都エイズ対策キャンペーンの評価に関する研究 第8報「都内高校生の意識と行動」. 日本公衛誌 1994; 41 (10特): 1119.
- 8) 杉本章二, 他. HIV 検査受診者への意識調査. 四国公衛誌 1994; 39 (1): 97-100.
- 9) 薩田清明, 高橋正巳, 盾 博. エイズに関する意識および知識について. 日本公衛誌 1994; 41 (7): 658-665.
- 10) 薩田清明, 他. エイズに対する意識について 第1報 看護学生と大学生の調査から. 日医大誌 1993; 60 (3): 186-191.
- 11) 平成5年度「世界エイズデー」関連行事の概要 平成5年度「世界エイズデー」(12/1) 関連行事の実施について 厚生省保健医療局エイズ結核感染症課通知 1993.

QUESTIONNAIRE SURVEY OF AIDS EXAMINATION RECIPIENTS AT GOVERNMENT-RUN PUBLIC HEALTH CENTER REGARDING AIDS AWARENESS PROMOTION AND HIV EXAMINATIONS

Soichiro HASEGAWA*, Hiroki SAWA*, Kuniki SHIMIZU*, Masanobu FUJIOKA*,
Masahiko TSUSHIO*, Noboru FUJIHARA*, Naohisa ISHIKAWA^{2*}, Michihiko SHIMIZU^{2*},
Keiichi KATO^{2*}, Kimimaro DENPO^{3*}, Izumi YOSHIKAWA^{4*}, Eizo KANOU^{5*},
Houko MIYAMOTO^{6*}, Ryuji AGEMATSU^{7*}, Keitetsu SUNAGAWA^{8*}, Kazuo TAJIMA^{9*}

Key words: AIDS/HIV, Questionnaire, Enlightenment, HIV-examination,

An anonymous questionnaire survey was conducted among persons who had undergone screening for AIDS at public health centers under the auspices of 7 local government bodies (Hokkaido, Metropolitan Tokyo, Aichi Prefecture, Osaka Prefecture, Kobe City, Saga Prefecture, Okinawa Prefecture). There were 1,230 replies, for a response rate of 46.8%. Questions in the survey pertained to general knowledge of AIDS, information desired by the recipients, desired ways to foster awareness, and a desirable examination system. A comparison was made in terms of gender, marriage status (married, single) and age (less than 40 years of age, more than 40 years of age), respectively. The survey results were as follows.

1. Concerning the infection route, accurate response rate was low with regard to the mother-child infection, mosquito transmission, and use of contaminated needles.

2. Desired methods to promote AIDS awareness expressed among replies were given in the following order or frequency: "information via radio and TV," "spread of knowledge through telephone consultation," and "holding an AIDS Week or similar kinds of campaigns."

3. Information sought by respondents frequently included AIDS treatment, pathology, and spread. This trend was most obvious among those under 40 years of age.

4. As for the AIDS examination system, replies most often reflected the hope that the examination site would be the Public Health Center, the charge would be gratis, and that one could be examined at night during the week, and on days off.

5. For those undergoing examination where there was no actual concern of possibility of HIV infection, single persons, accounted for around 80% of the overall.

6. More than half of those who had been examined mentioned having experienced concerns about maintaining confidentiality at the time they were examined.

* Department of Health, Aichi Prefecture

^{2*} Institute of Health, Aichi Prefecture

^{3*} Hokkaido

^{4*} Tokyo Metropolitan

^{5*} Osaka Prefecture

^{6*} Kobe City

^{7*} Saga Prefecture

^{8*} Okinawa Prefecture

^{9*} Division of Epidemiology, Aichi Cancer Center Research Institute